

開催日 2011年11月16日(水)

場 所 グラントウキョウ ノースタワー 18階ホール



大和証券グループ 2011年度 秋季 経営戦略説明会

株式会社大和証券グループ本社
執行役社長 日比野 隆司

Daiwa Securities Group

本資料は、2011年度の業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2011年11月16日現在で公表可能な情報に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

大和証券グループ 2011年度 秋季 経営戦略説明会

目次

I. 2011年度上期総括	・ ・ ・ p	4
II. 連結財務状況	・ ・ ・ p	7
III. 経営基本方針の進捗状況	・ ・ ・ p	12
III-1. 強靱な経営基盤の確立	・ ・ ・ p	14
III-2. アジアを代表する証券グループへ	・ ・ ・ p	22
IV. 終わりに “新”大和証券へ向けて	・ ・ ・ p	27
Appendix	・ ・ ・ p	31

I . 2011年度上期総括

Daiwa Securities Group

大和証券グループ 2011年度上期 連結業績概要

- 純営業収益は1,747億円と前年同期比9%増収を確保するも、販管費削減策実施に伴う特別損失計上等により最終損益は▲287億円

連結業績

(単位:百万円)	FY2010 (1H)	FY2011 (1H)	前年 同期比
営業収益	201,388	216,106	7.3%
純営業収益	160,048	174,704	9.2%
販管費	176,840	187,750	6.2%
経常利益	-9,027	-7,169	-
純利益	-5,384	-28,787	-
総資産	16,594,420	18,406,338	
純資産	934,776	828,173	
自己資本	856,224	753,662	
BPS(円)	500.95	447.54	

セグメント別収支状況

(単位:百万円)	純営業収益			経常利益		
	FY2010 (1H)	FY2011 (1H)	前年 同期比	FY2010 (1H)	FY2011 (1H)	前年 同期比
リテール部門	87,755	88,310	0.6%	18,904	20,628	9.1%
GM部門	31,430	29,015	-7.7%	-21,770	-28,662	-
GIB部門	14,432	11,403	-21.0%	-7,234	-10,256	-
AM部門	17,995	19,426	8.0%	7,591	8,208	8.1%
投資部門	-3,664	2,511	-	-7,374	780	-
その他・調整等	12,098	24,036	-	856	2,130	-
連結計	160,048	174,704	9.2%	-9,027	-7,169	-

※ 自己資本=株主資本+その他の包括利益累計額

厳しい環境下で収益水準を維持するも収支改善に係る一時費用等により最終損益が悪化

- **連結 純営業収益は1,747億円(前年同期比+9.2%) 厳しい市場環境下で増収を確保**
 - 国内株式売買代金の縮小、エクイティファイナンスの激減によりエクイティ関連収益が大きく減少
 - 投信関連収益の増加により前年同期比増収を確保
- **連結 経常損益は▲71億円**
 - 金利為替環境の急激な変化を受けてグローバル・マーケット部門のトレーディング損益が悪化
 - 一方で、投資部門の黒字化、リテール部門およびアセット・マネジメント部門が前年同期比で増益を確保する堅実な営業展開で連結経常損益への影響を最小限に留めた
- **連結 最終損益は▲287億円 各種コスト削減策の実施に伴う特別損失を計上**
 - ✓「ベース販管費」400億円削減を第2四半期より本格的に着手
 - ✓事業再編関連費用約▲27億円や固定資産除売却損約▲68億円等、ホールセールや海外部門を中心とした不採算ビジネスの縮小・撤退に伴う特別損失を計上

II. 連結財務狀況

Daiwa Securities Group

Ⅱ. 連結財務状況

自己資本の状況

- バーゼルⅡに基づく連結自己資本規制比率は25.8%、Tier1比率は24.1%（概算値）
- 欧州周縁国のエクスポージャーは約138億円

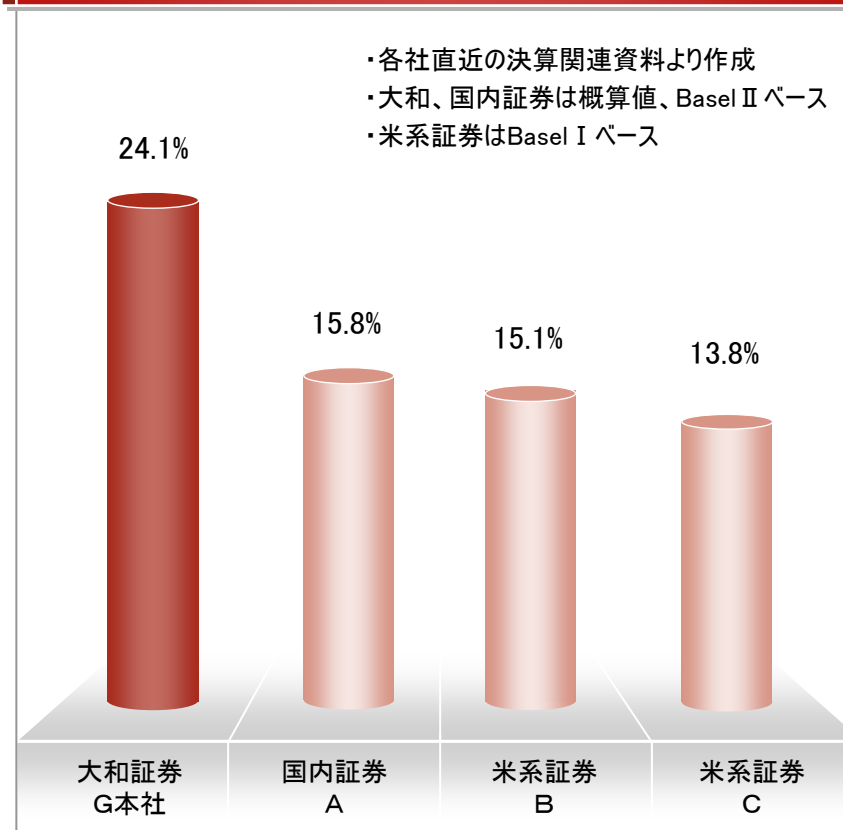
連結自己資本規制比率

(単位:十億円)	2011年 3月末	2011年 6月末	2011年 9月末 (概算値)
自己資本合計	966.8	910.8	854.9
Tier1	866.5	845.2	799.7
Tier2	62.3	45.0	33.9
Tier3	73.7	57.4	56.9
リスク・アセット	3,545.3	3,245.0	3,309.1
連結自己資本規制比率	27.2%	28.0%	25.8%
Tier1比率	24.4%	26.0%	24.1%

欧州周縁国のエクスポージャー

(9月末現在)	保有額	主な内訳
ギリシャ	約1億円	・ギリシャ国債
イタリア	約108億円	・イタリアCDS
アイルランド	約1億円	・預金等
ポルトガル	なし	
スペイン	約28億円	・スペイン政府保証債 6億円 ・その他事業債等 22億円

証券各社 Tier1 比率(9月末)

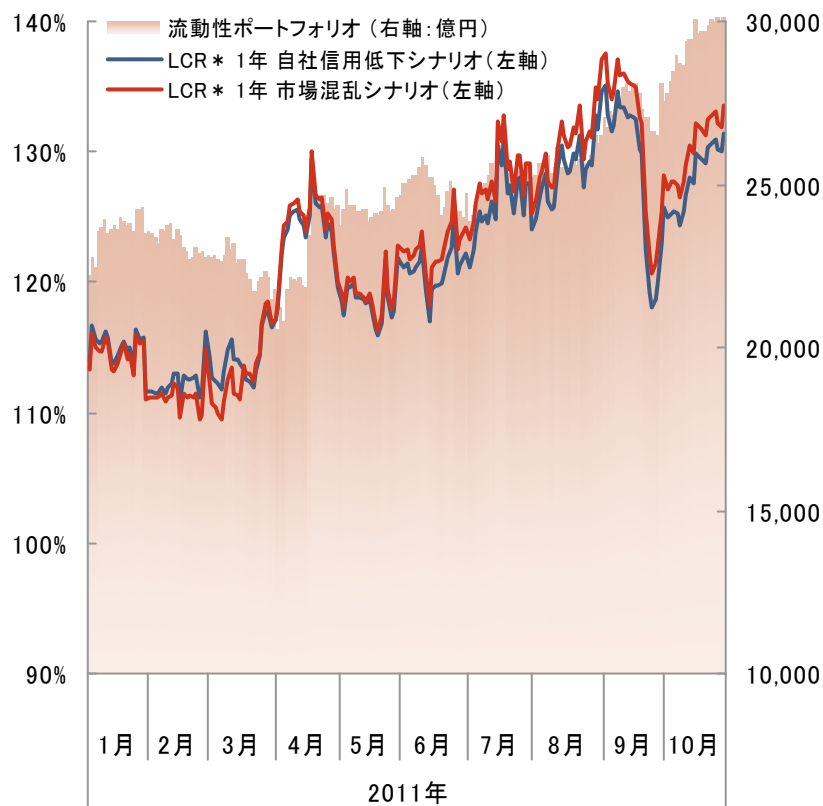


資金管理の状況



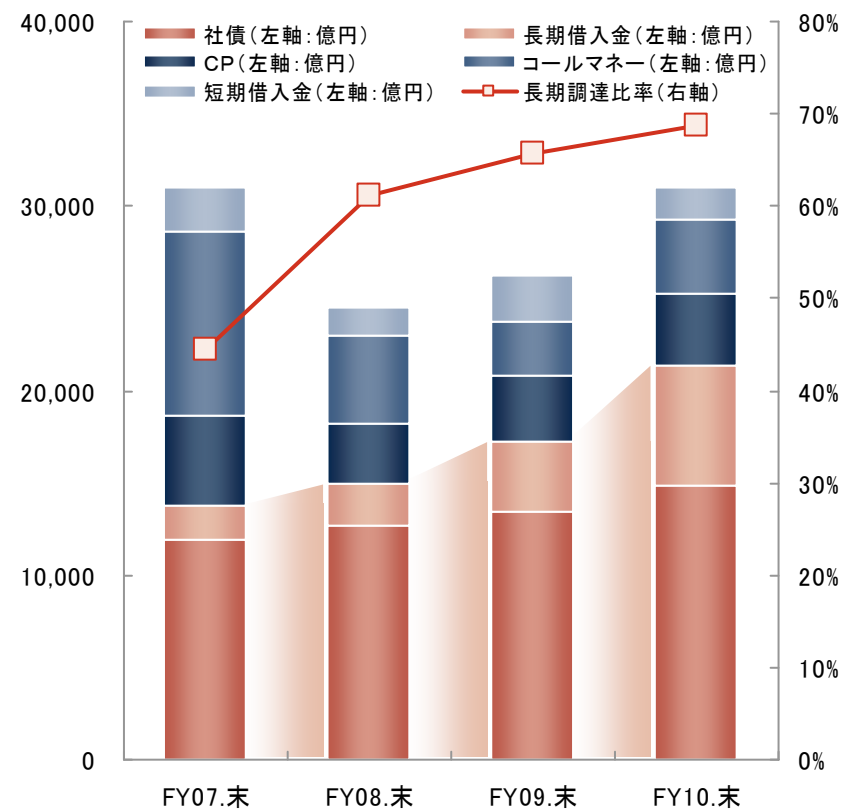
- 現在の流動性ポートフォリオは3兆円以上、無担保調達が途絶えたストレス下においても1年以上事業継続が可能
- 無担保調達資金における長期調達比率は約70%

流動性ポートフォリオおよびストレステスト



* バーゼル委員会提示のLCRに準拠した大和証券G本社独自の定義による。

無担保調達構造

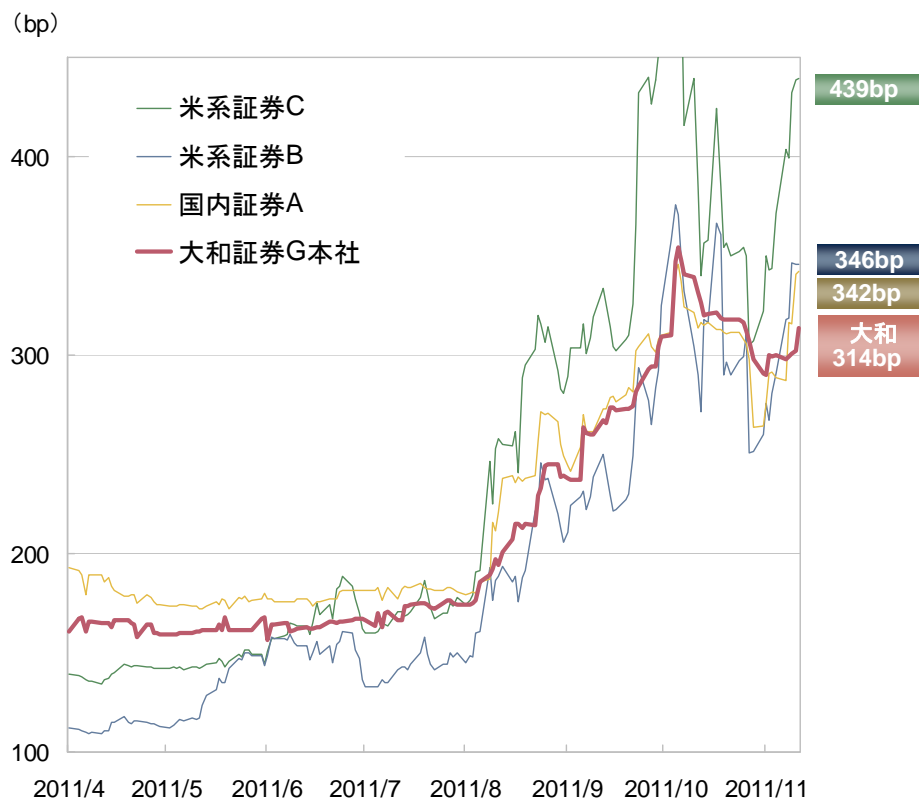


CDSの状況



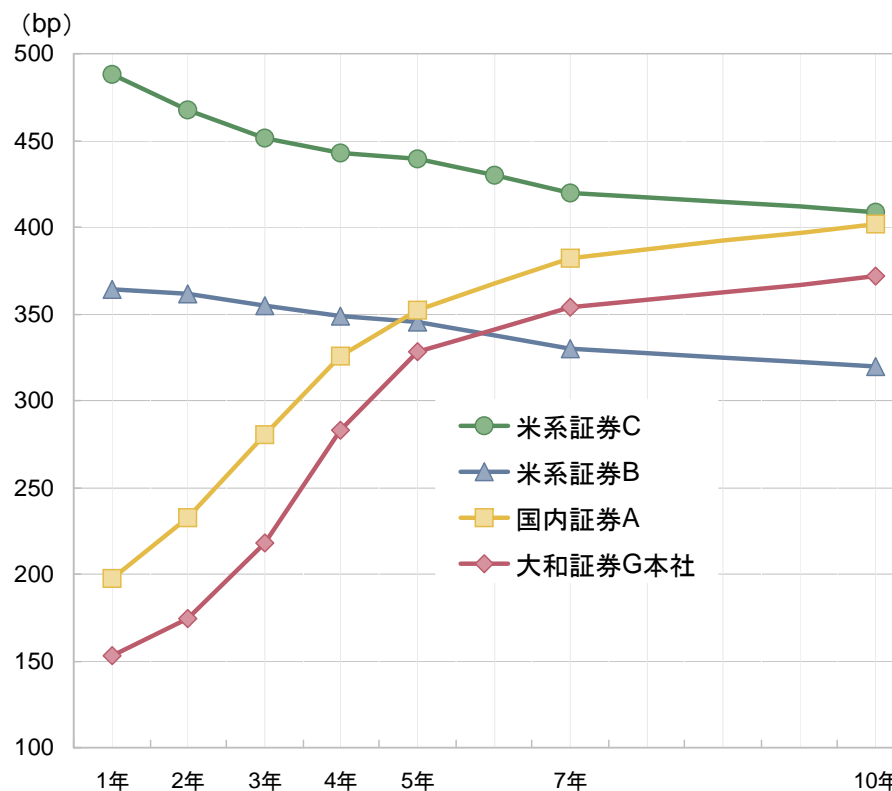
- 米国債格下げおよび欧州債務危機の影響により当社のCDSスプレッドは米国投資銀行と平行に上昇したが、欧州関連エクスポージャーが少ないことを反映して直近は相対的に低下傾向

CDSスプレッド(5年;Mid)の推移



【出所】 Bloomberg

CDSスプレッドカーブ (Mid; 2011/11/11時点)



【出所】 Bloomberg

当社グループの格付状況

- 2011年9月28日 FITCH: グループ本社の格付 BBB+(ネガティブ)よりBBB+(安定的)へアウトルックを引き上げ
- 2011年11月9日 Moody's: グループ本社の格付 Baa2よりBaa3(ネガティブ)へ引き下げ

		グループ本社	大和証券	大和証券CM
Moody's	2009年9月8日	Baa1(格下げ方向で見直し) ⇒Baa2(ネガティブ)	Baa1(格下げ方向で見直し) ⇒Baa1(安定的)	A1(格下げ方向で見直し) ⇒A2(格下げ方向で見直し)
	2009年11月30日	Baa2(安定的)		Baa1(安定的)
	2011年8月2日	Baa2(引き下げ方向で見直し)	Baa1(引き下げ方向で見直し)	Baa1(引き下げ方向で見直し)
	2011年11月9日	Baa3(ネガティブ)	Baa2(ネガティブ)	Baa2(ネガティブ)
S&P	2009年9月11日	BBB+(安定的) ⇒BBB(安定的)	BBB+(安定的)	A(安定的) ⇒BBB+(安定的)
	2011年7月7日	BBB(ネガティブ)	BBB+(ネガティブ)	BBB+(ネガティブ)
FITCH	2009年11月9日	BBB+(ネガティブ)	—	A-(ネガティブ)
	2011年9月28日	BBB+(安定的)	—	BBB+(安定的)
R&I	2009年9月10日	A(ネガティブ)	A(ネガティブ)	A+(ネガティブ) ⇒A(ネガティブ)
	2010年2月5日	A(安定的)	A(安定的)	A(安定的)
JCR	2009年12月28日	A+(ネガティブ) ⇒A+(安定的)	A+(ネガティブ) ⇒A+(安定的)	—
	2011年1月21日			A+(安定的)

Ⅲ. 経営基本方針の進捗状況

① 強靱な経営基盤の確立

リーマンショック並みのストレス環境下においても収支均衡を維持する収支構造の確立

安定収益の拡大（増収600億円）

- 大和証券の株式投信販売額はリーマンショック前を上回る水準で推移
- 大和投信の銀行窓販シェアが業界2位へ躍進するなど運用資産残高シェアの拡大が続く
- 大和ネクスト銀行の預金残高は10月に1兆円を突破

組織運営の効率化（収支改善400億円）

- 証券子会社2社の統合を発表、ミドル・バック部門からフロント部門への人員シフトは計画より前倒しで展開
- 海外販管費やシステム関連費を中心に、当初目標300億円を上回る400億円規模のコスト削減計画を策定

② アジアを代表する証券グループへ

日本を含むアジアをマザーマーケットとし日本とアジアの成長市場を結ぶことで中期的成長を実現

- 環境： 株式市況の停滞が続いたものの、M&A等を活用した日本企業による積極的なアジア進出が続く
- 実績： 台湾政府との覚書調印をはじめとした着実な足場固め
一方で不採算ビジネスの縮小・撤退やミドル・バック部門の集約等によりコストコントロールを徹底

Ⅲ- 1. 強靱な経営基盤の確立

Daiwa Securities Group

1,000億円の収支改善に向けた主要5施策 (春季戦略説明会にて公表)



安定収益の拡大

組織運営の効率化

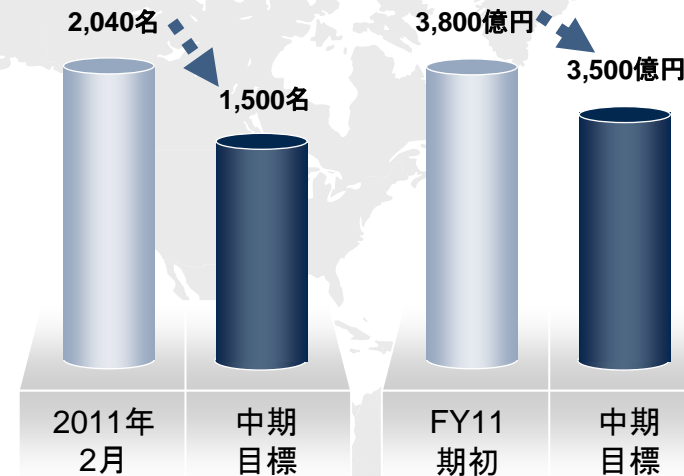
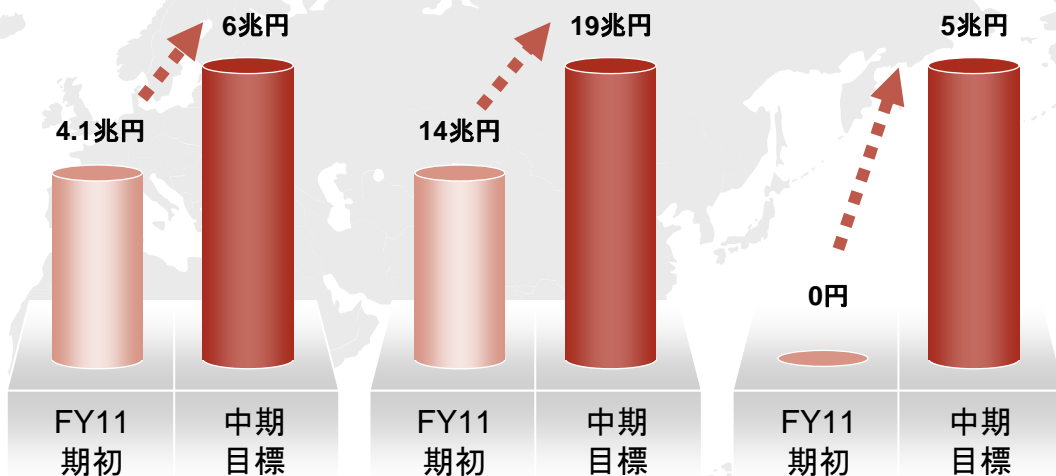
施策①
大和証券
株式投信残高拡大

施策②
アセット・マネジメント
運用資産残高拡大

施策③
大和ネクスト銀行
預金残高拡大

施策④
ミドル・バック部門
人員のフロントシフト

施策⑤
ベース販管費(*)
の削減



600億円増収

+

100億円増収

+

300億円削減

* ベース販管費＝経常利益ゼロ円で想定される連結販管費

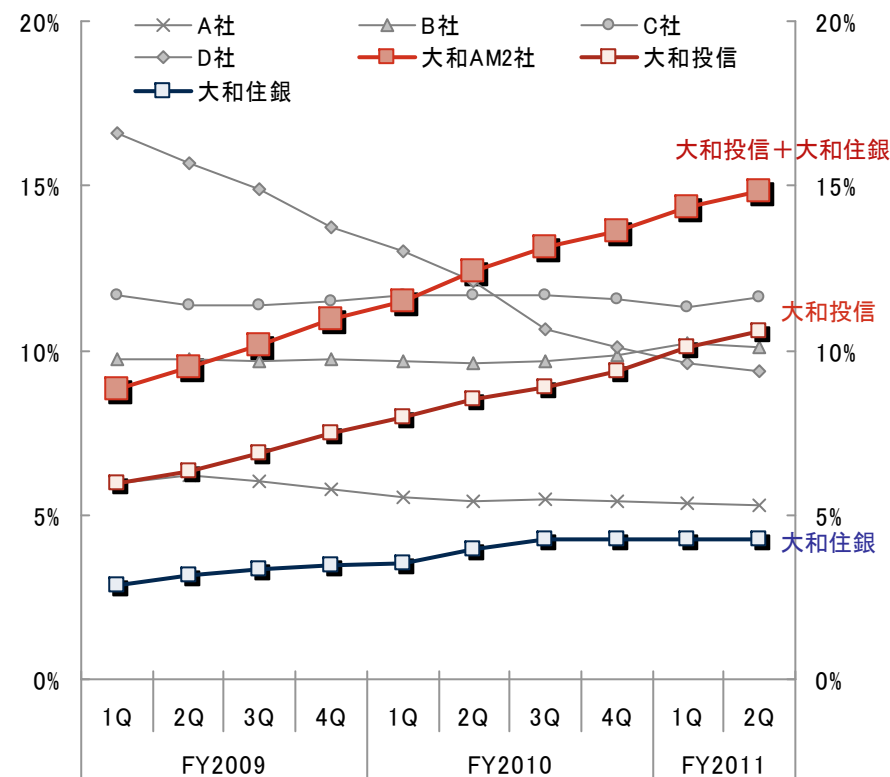
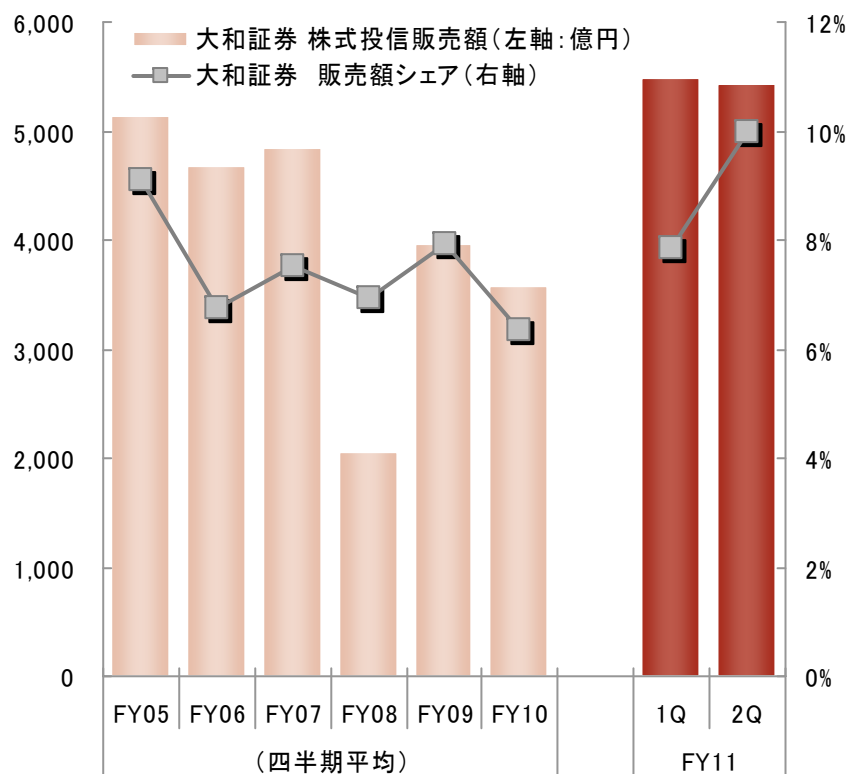
安定収益の拡大 株式投信へのフォーカス



- リテール部門の株式投信販売額は2011年度上期累計で1兆円と、リーマンショック前を上回る水準へ上昇
- アセット・マネジメント部門では販売チャネルの拡大が進捗し、銀行窓販シェアは業界首位へ

施策① リテール部門 株式投信販売

施策② アセット・マネジメント部門 窓販シェアの推移



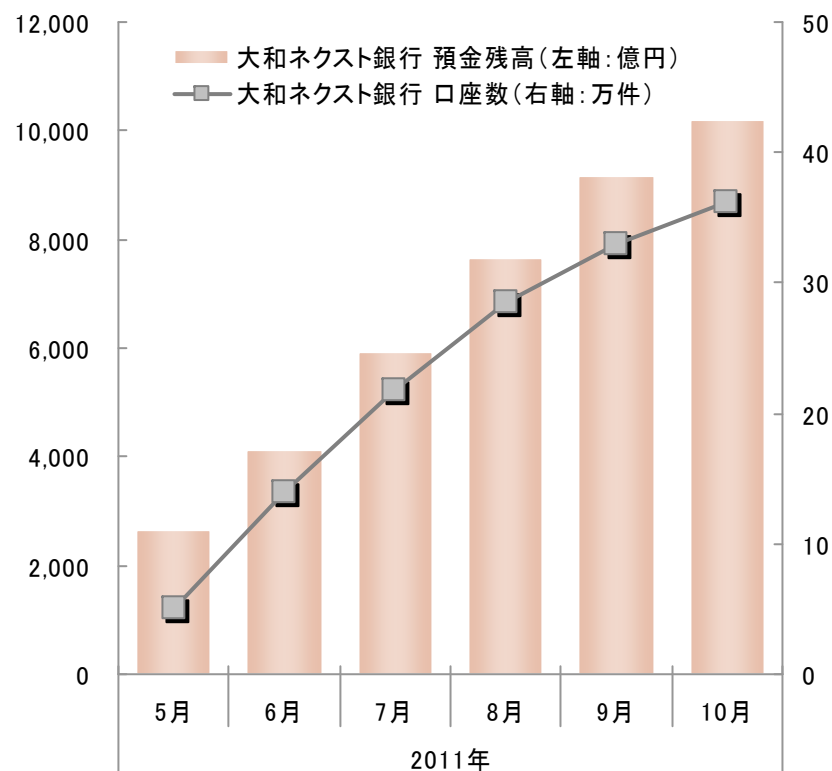
※投資信託協会のデータを基に大和投信が作成

安定収益の拡大 銀行預金へのフォーカス

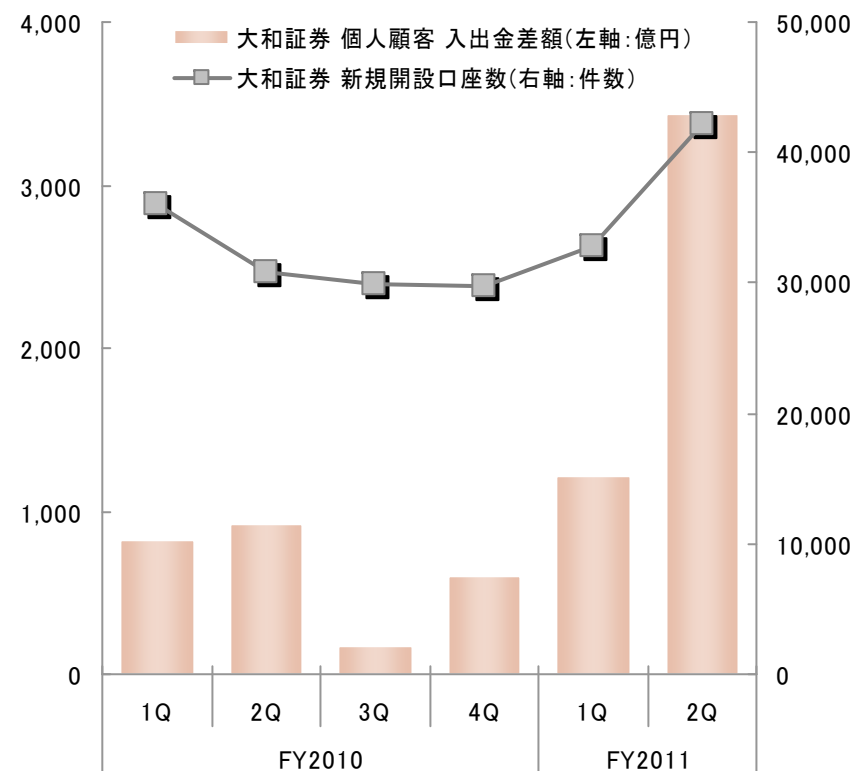


- 大和ネクスト銀行の預金残高は開業半年間足らずで1兆円を突破
- リテール部門では個人顧客の資金導入および新規口座開設が大幅に増加

施策③ 大和ネクスト銀行 預金残高推移



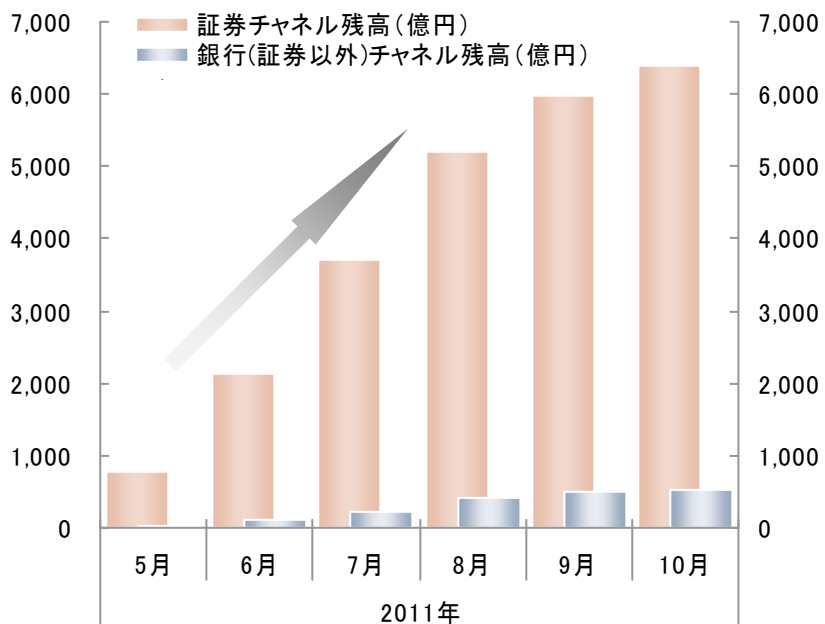
リテール顧客基盤への相乗効果



銀行業 ビジネスモデルの優位性

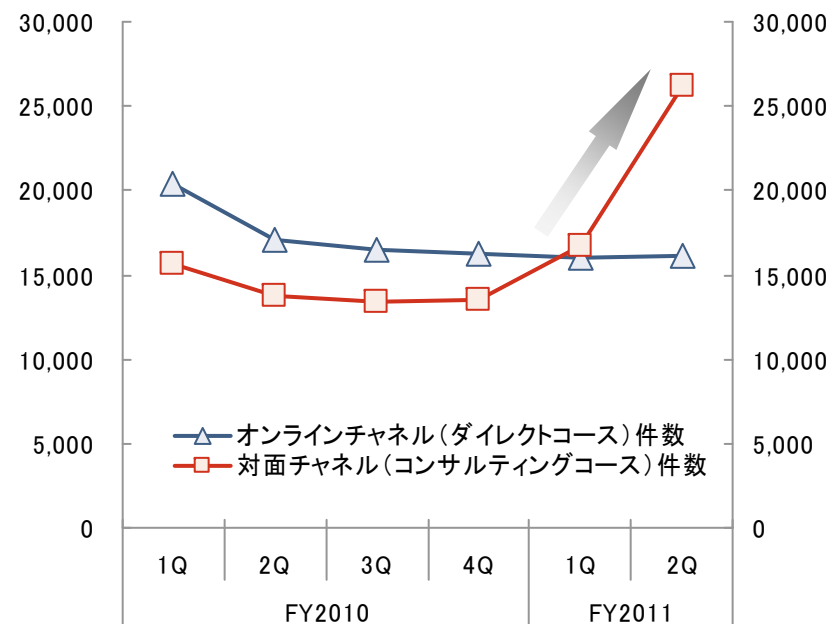
- ビジネスモデルの独自性・優位性により想定を上回るスピードでの預金残高1兆円到達
- 大和ネクスト銀行と大和証券、とりわけ対面チャンネルとの高いシナジーを確認

チャンネル別 個人預金残高



証券チャンネルでの有効性を確認

大和証券 新規開設口座数

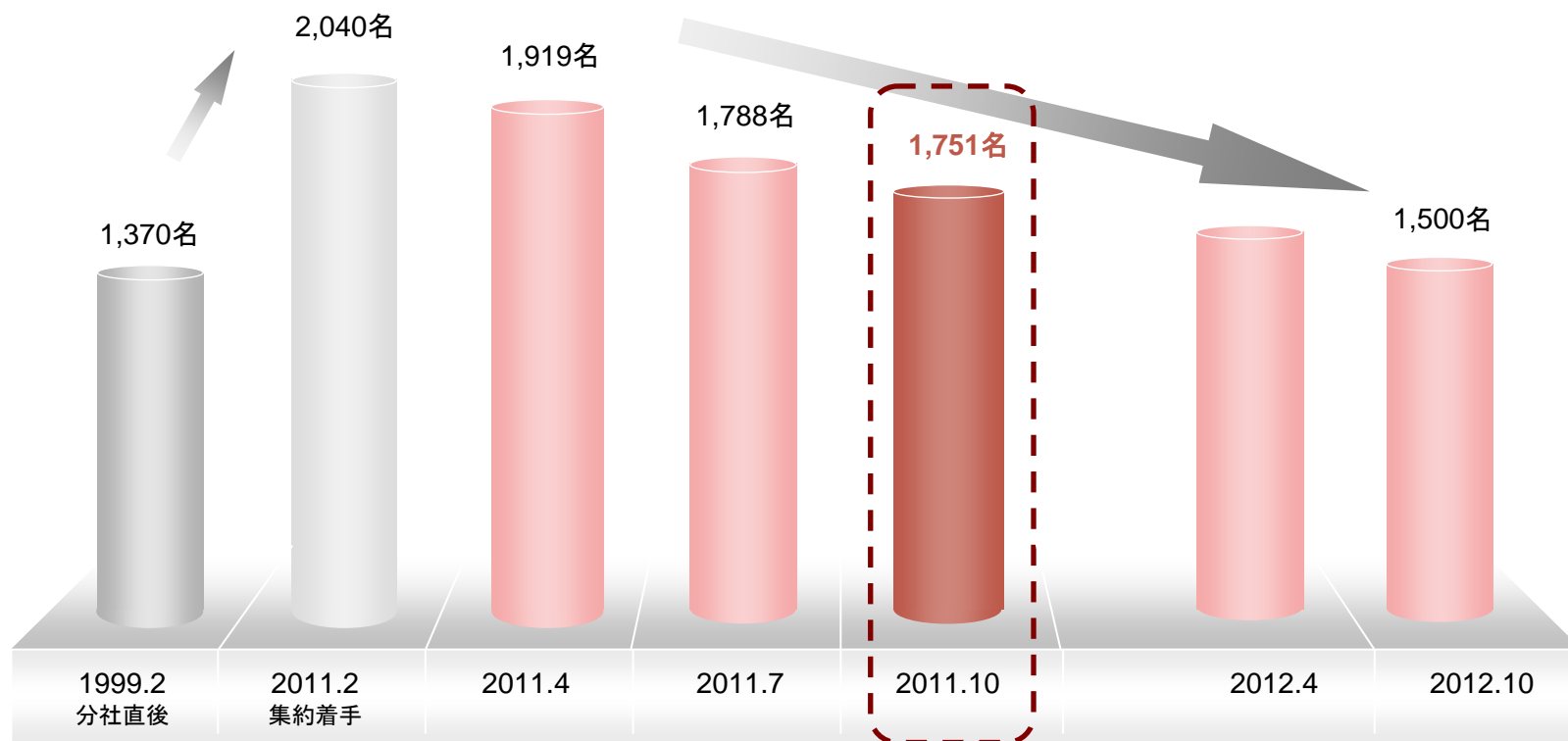


対面チャンネルでの有効性を確認

組織運営の効率化 ミドル・バック部門人員のフロントシフト

- ミドル・バック部門の人員シフトは当初計画(3年かけ2014年4月に完了)より大幅に前倒しで完了見込み

施策④ 証券2社およびグループ本社ミドル・バック部門の人員数

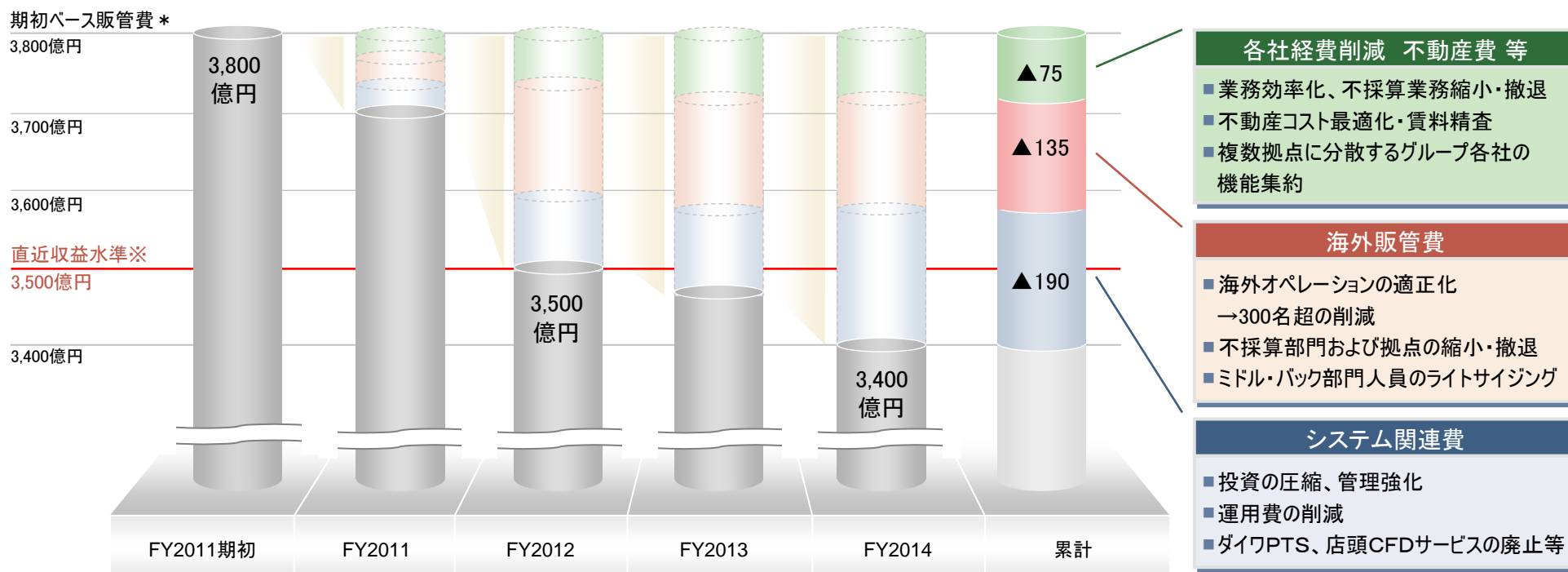


組織運営の効率化 ベース販管費の削減



- 5月の経営戦略説明会で発表した「300億円の販管費削減」より更に100億円上乗せし、400億円以上の削減へ
- 国内の組織運営の効率化に加え、海外では不採算部門・拠点の縮小・撤退、およびそれに伴う300名超の人員削減
- 削減効果は2011年度下期より現われ、2012年度には進捗率75%を超え、ベース販管費3,500億円水準へ
- 2013年度以降もシステムの減価償却費減少等により販管費削減、2014年度には3,400億円以下へ

施策⑤ ベース販管費削減の取組み



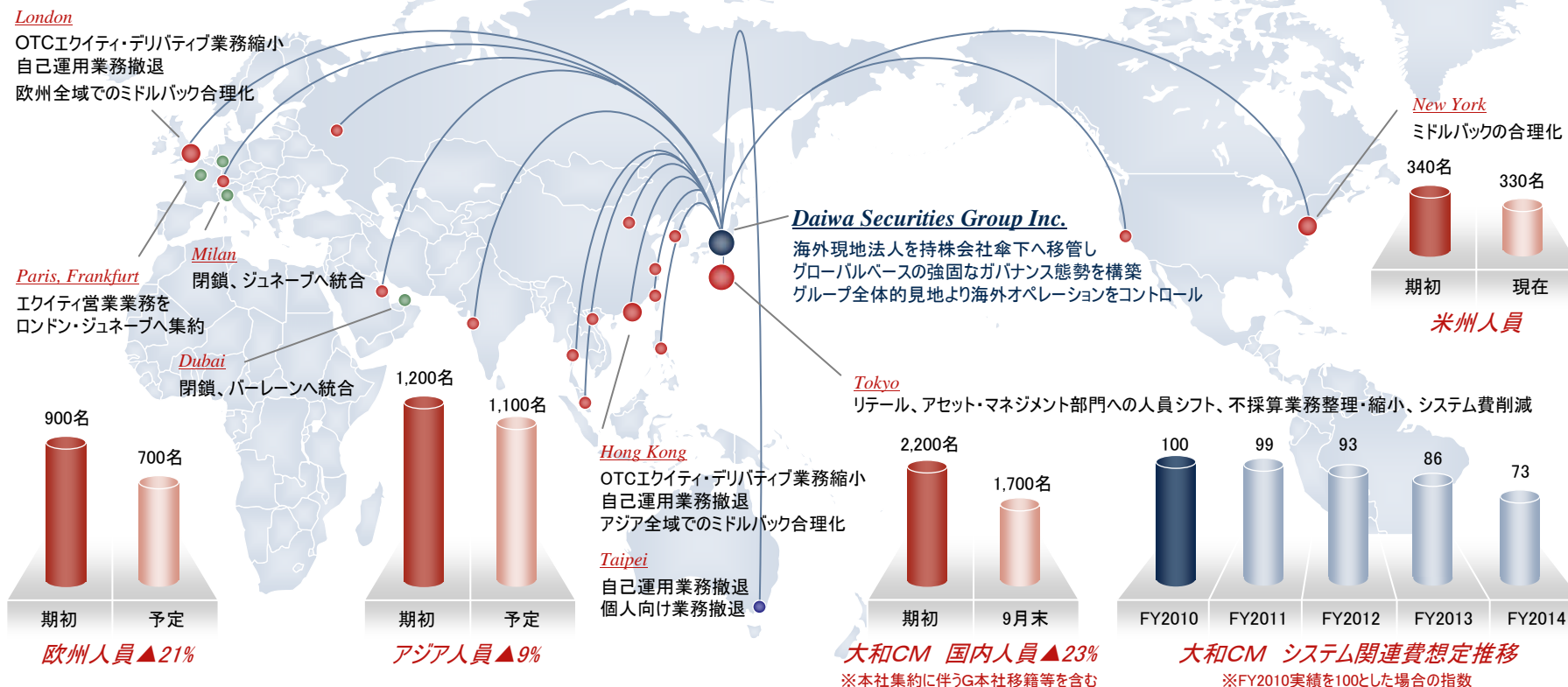
* ベース販管費 = 経常利益ゼロ円で想定される連結販管費
 ※ 直近収益水準 = FY2008~FY2010の平均実績、FY2011 1H実績 × 2に相当

ホールセールビジネスのライトサイジング



- ホールセールビジネスではグローバルベースで事業基盤の再編・再構築を実施
- 国内部門はリテール、アセット・マネジメント部門への人員シフトおよびシステム関連費を削減
- 海外部門では特に市場環境が悪化している欧州を中心に人員削減・拠点統廃合を実施

ホールセールビジネスの再編・再構築



Ⅲ- 2. アジアを代表する証券グループへ

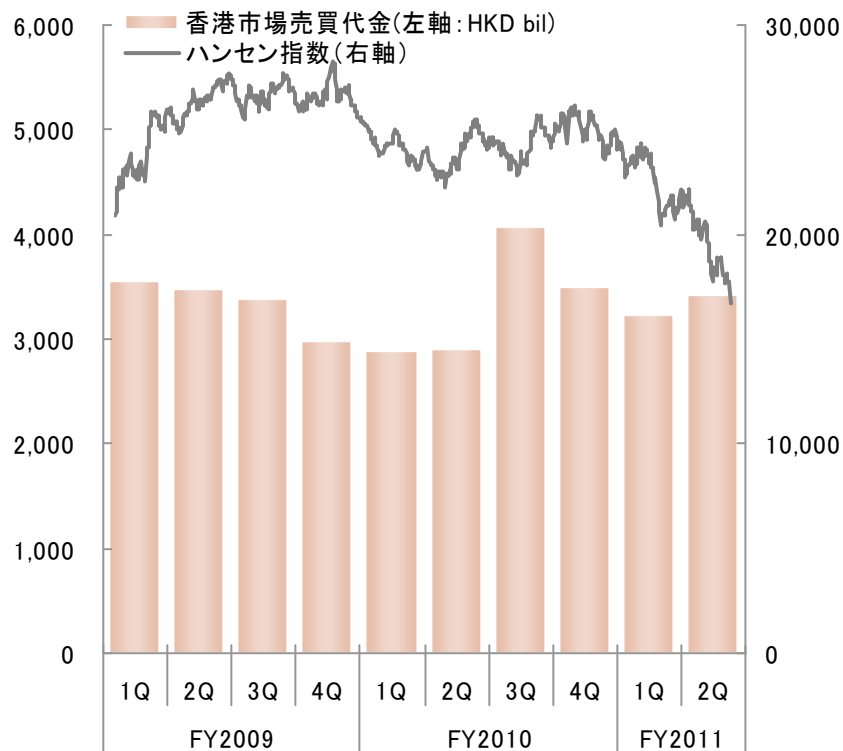
Daiwa Securities Group

アジアの事業環境

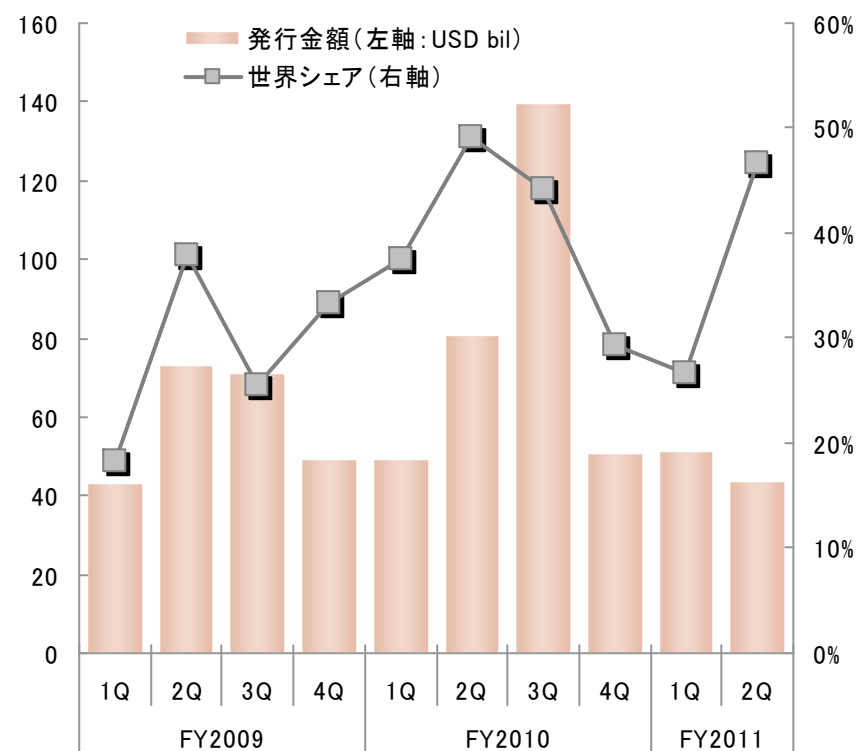


- 2011年は年初より香港市場をはじめとしたアジア・新興国市場の調整局面が続き、アジアECM市場は前年を下回る水準で推移

香港市場売買代金



アジア(日本除く)ECM市場

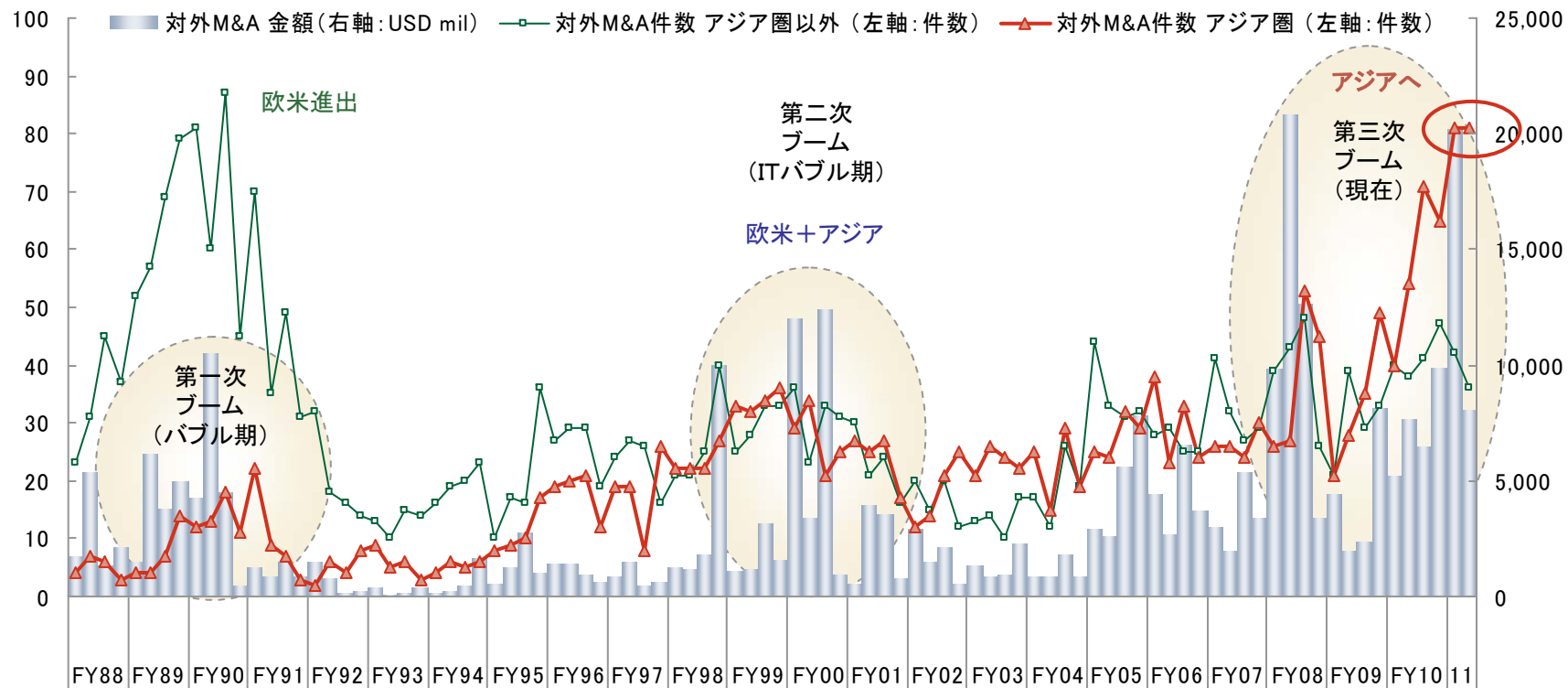


※発行会社の所在地がアジア・オセアニア(日本・中東・中央アジアを除く)

日本企業の積極的なアジア進出

- 日本企業による対外M&Aはアジア圏での買収が牽引し、第三次ブームへ
- 直近の日本企業によるアジア企業の買収は、大型案件が少なかったものの買収件数は2011年度第1・第2四半期ともに過去最高の水準

日本企業の対外M&A推移



※出所: Thomson Financial

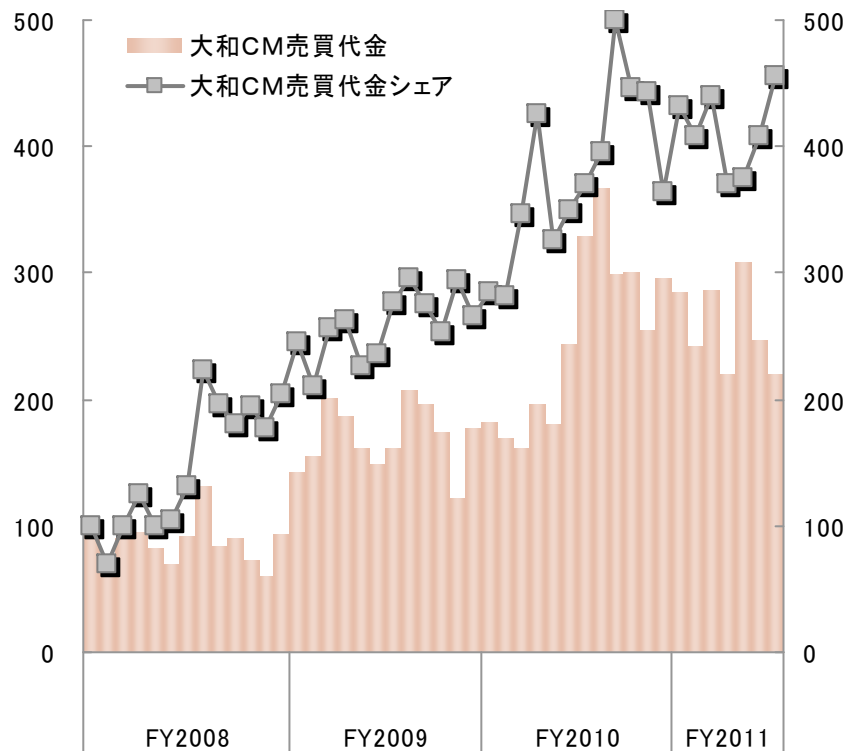
GM部門の概況



- 香港株式市場における売買代金シェアは高水準を維持するなど、アジア株ブローカレッジは順調に拡大
- DIC香港(2011年11月開催)は参加企業数、投資家数が過去最大となり、アジア有数のカンファレンスへ

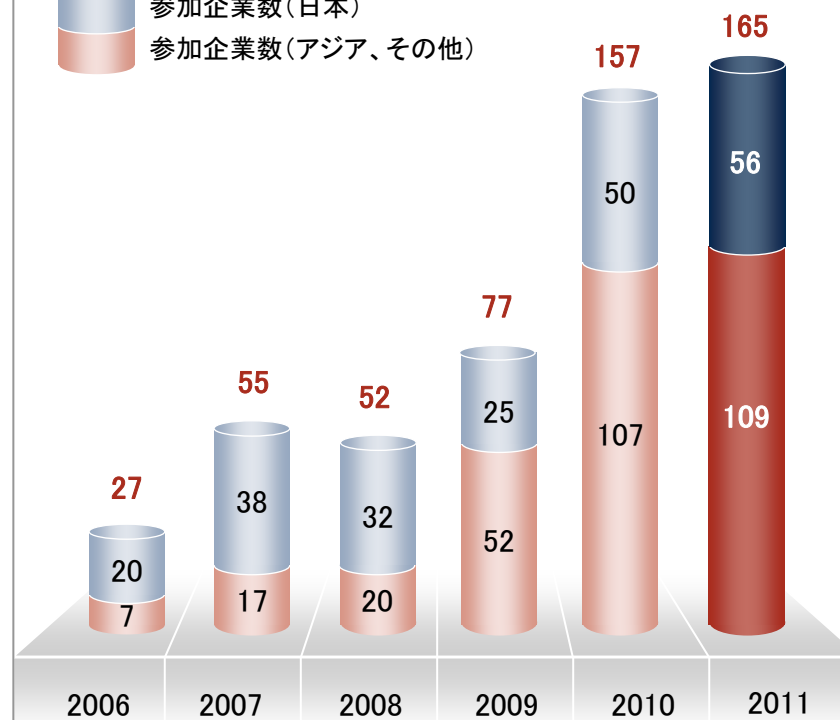
香港市場 大和CM売買代金シェア推移

(2008年3月=100として指数化)



Daiwa Investment Conference 香港

参加企業数(日本)
参加企業数(アジア、その他)

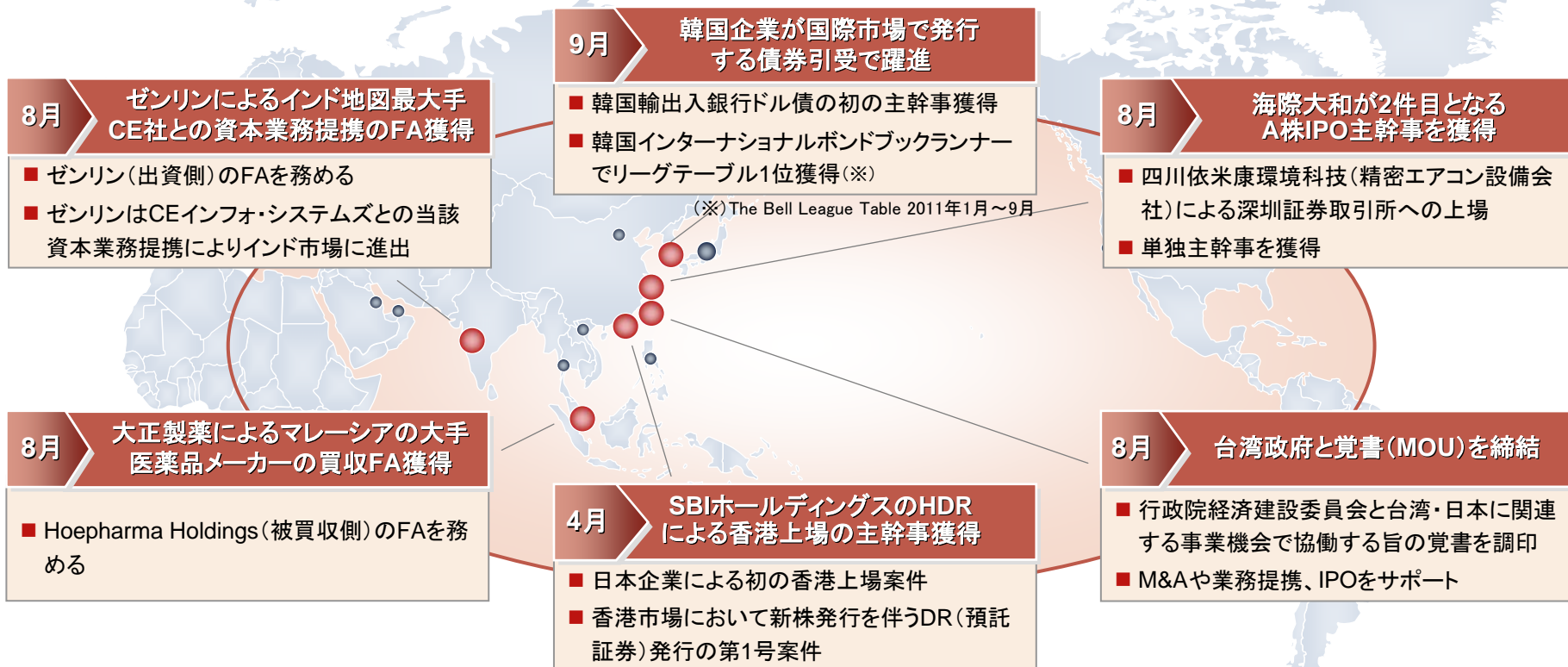


GIB部門の概況



- GIB部門は日本企業初の香港上場主幹事獲得や、台湾政府と台湾・日本に関連する事業機会の協働に関する覚書調印をはじめとした、アジアにおけるプレゼンス向上と着実な足場固めが進捗

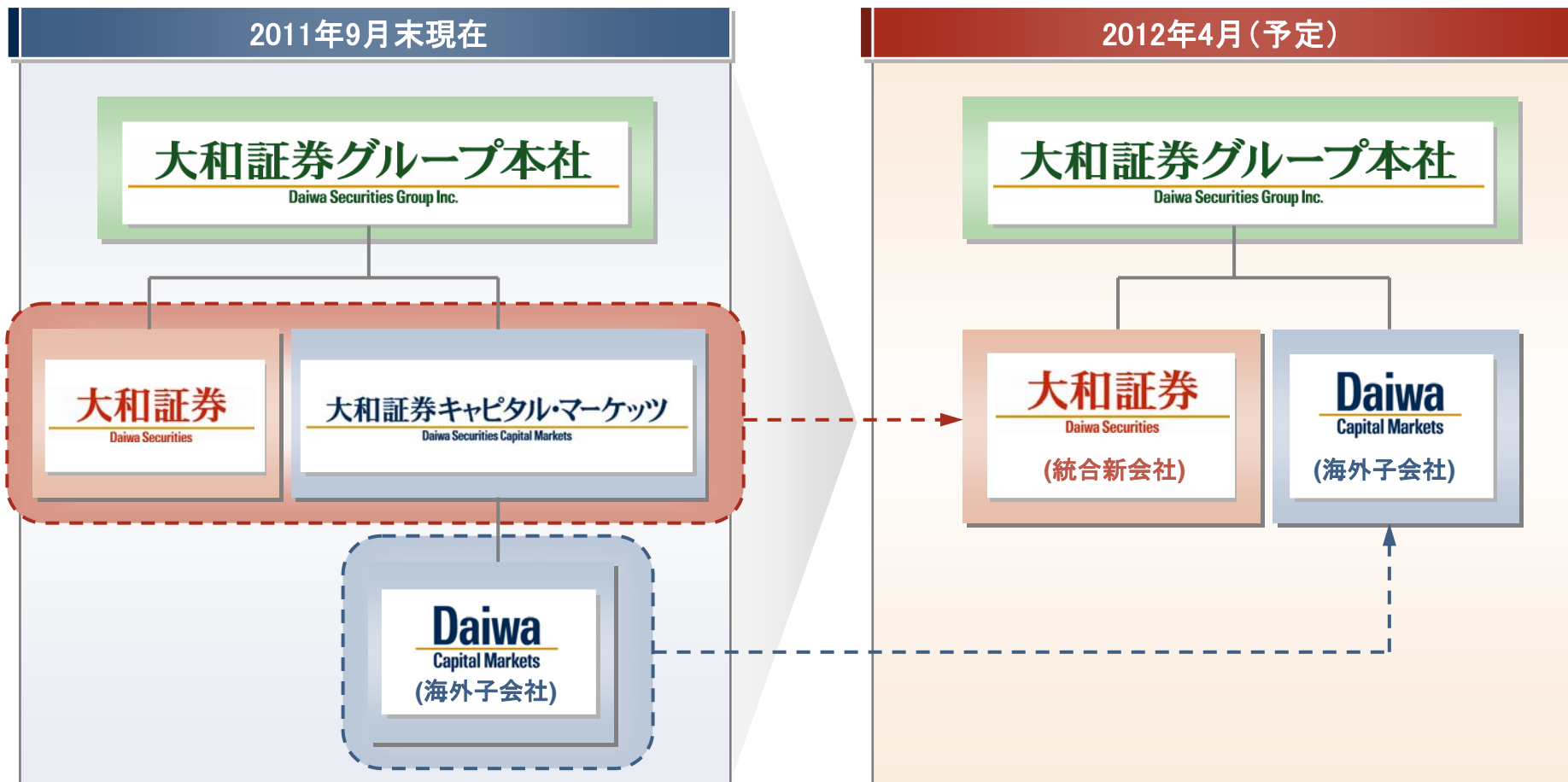
主要実績



IV. 終わりに

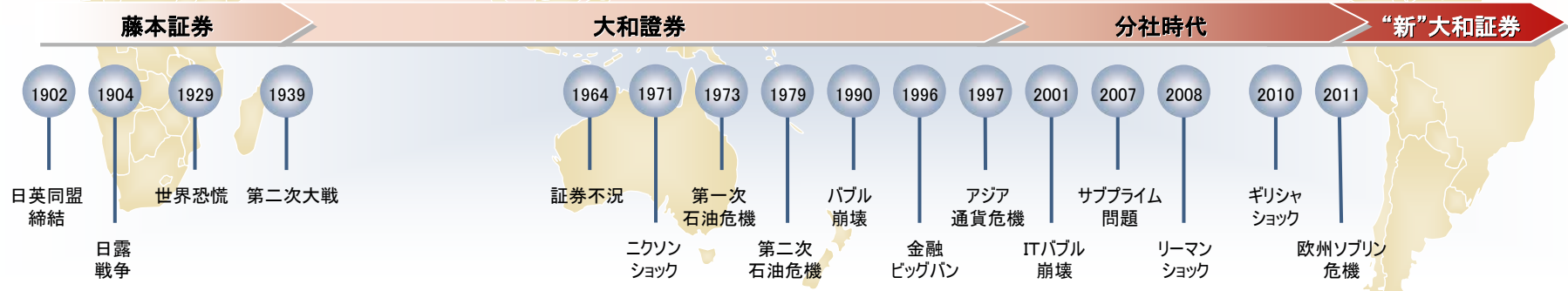
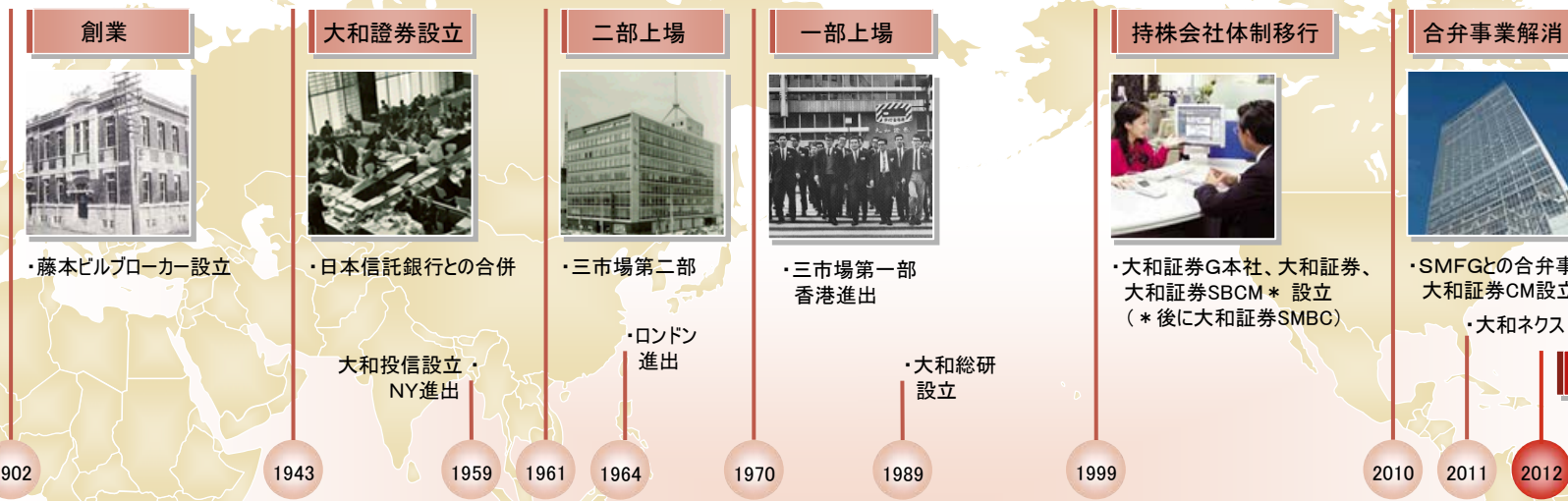
“新”大和証券へ向けて

グループ内組織再編概要



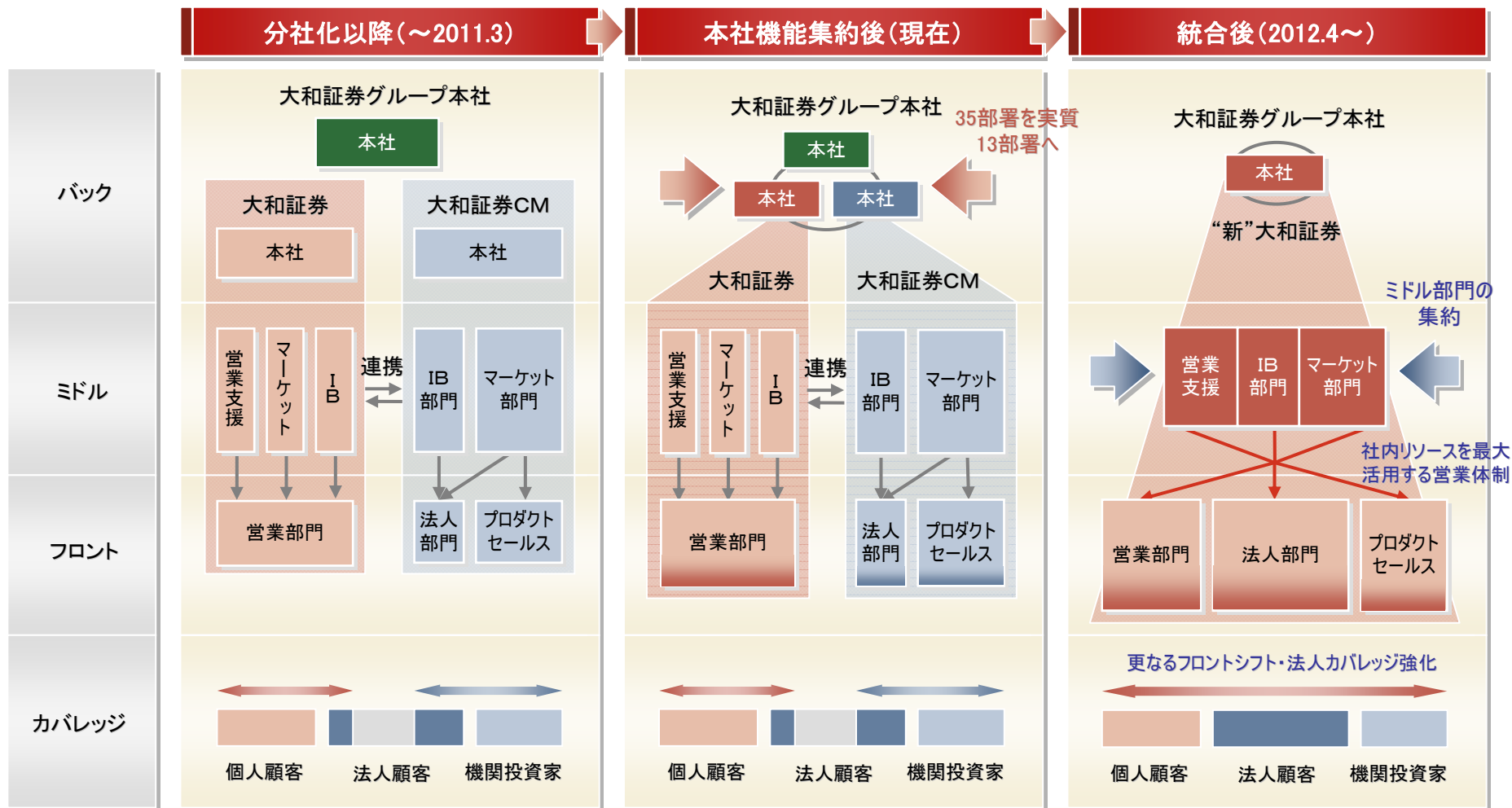
“新”大和証券へ向けて

大和証券グループのあゆみ



“新”大和証券へ向けて

- “新”大和証券＝強力な営業体制と効率的な経営体制を備えた総合証券の実現

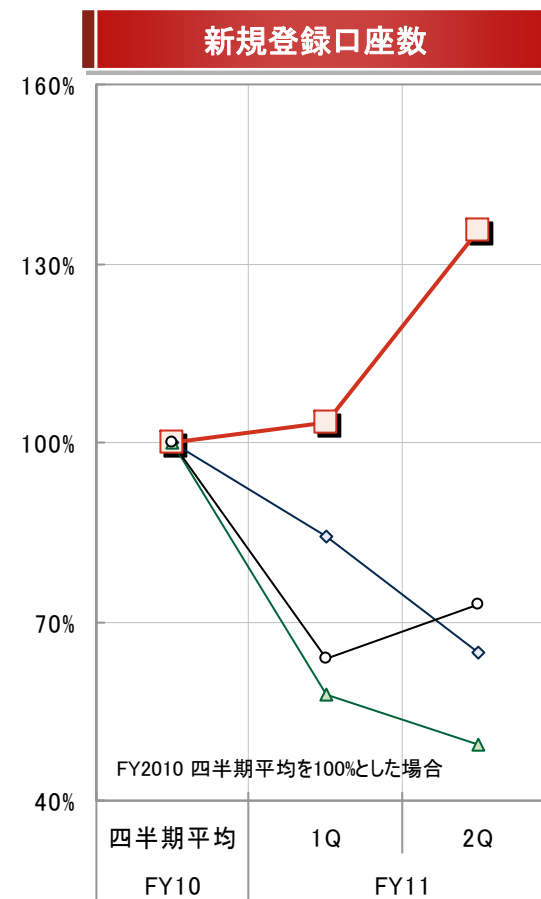
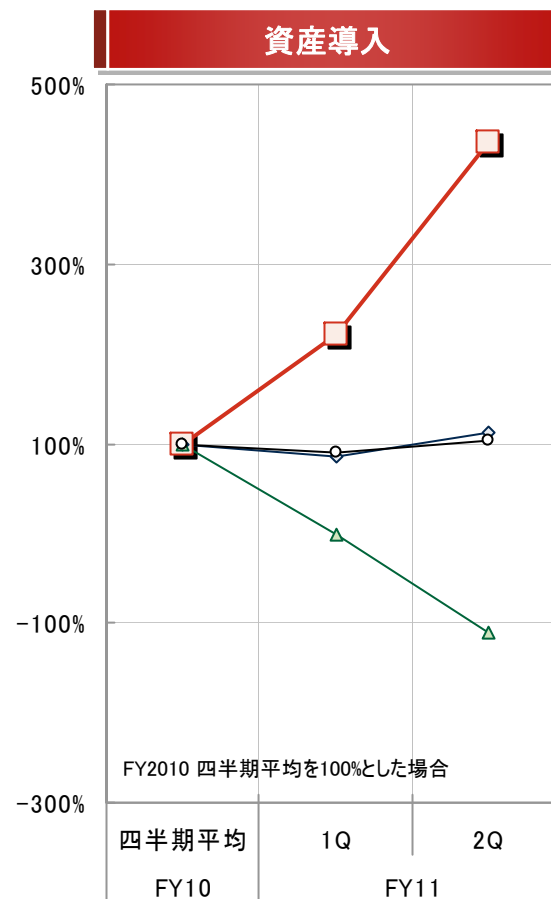
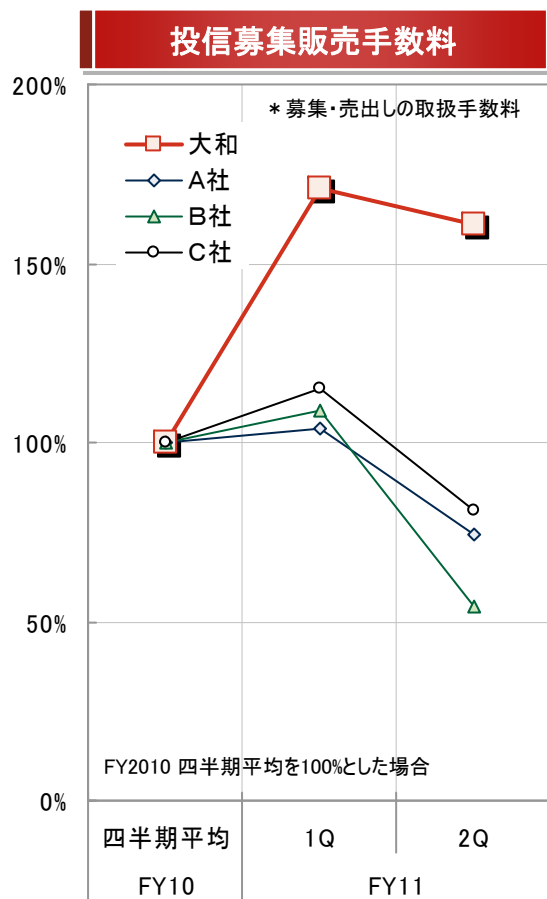


Appendix

Daiwa Securities Group

大手証券 リテール部門 主要業務指標推移

- リテール部門は株式投信販売および顧客基盤の拡大を軸とした営業展開により相対的に堅調な推移



Daiwa Securities Group

大和証券グループ本社 IR室

TEL: 03-5555-1300 FAX: 03-5555-0661

E-mail: ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

URL: <http://www.daiwa-grp.jp/ir/>